

## 6月 市教研指答案【道徳】

### 1 主題名 「何が正しいのだろう」

(指導の観点 中学校(10) 遵法精神・公德心(11) 公正、公平、社会正義)

### 2 主題設定の理由—1 <特別の教科道徳の重要性>

中学校の特別支援学級において、身辺自立や基礎学力の向上などを目指して、日々生徒の支援や指導にあたっている。在籍生徒のほとんどが、中学を卒業後に高等部の特別支援学校へ進学していく中で、高等部で有用な生徒として活躍していく力、中学校の3年間で身につけてほしいと願っている。それと同時に、人から愛される人柄や振る舞い、適切な道徳感覚も育てていきたい。性格や考え方の成長は、数値で判断することは難しく、具体的な成果というものを評価しづらいものではあるが、生きていく上で重要なものであるため、特別の教科道徳の授業づくり、工夫は欠かせないものとなっている。

### 主題設定の理由—2 <市教研で、なぜ道徳を選択したのか>

通常学級において、道徳の評価が始まっている。特別支援学級においても、道徳をカリキュラムに取り入れることになった。しかし、道徳の授業を展開する上で課題は山積していると感じている。例えば、生徒ごとに理解力に大きく差があり、一斉指導が通常学級以上に難しいという点、また答えがひとつではない道徳科において自分なりの考えをもつということが容易ではない点、そして評価をどのようにすれば良いのかという点などが課題としてあげられる。

今回、生徒たちの多くが理解しやすいような工夫をして授業を展開するが、各校でもおそらく道徳に関しては苦慮されていると思うため、様々な意見を交換し、今後の道徳の授業づくりのヒントをつかむ機会としたいと考えている。

### 3 生徒の実態

本学級は在籍生徒27人からなる比較的大きな集団である。障がい特性だけでなく、性格や個性が異なる生徒が27人在籍しており、基本的には皆のびのびと毎日の学校生活を送っている。生徒が多い学級のメリットとして、上級生が下級生を教えるという形をとることで、リーダー育成の場面を設定できたり、学校の中での存在感が大きかったりという点があげられる。一方で、静かで落ち着いた場面を好む生徒が、騒がしい生徒の言動に日々ストレスを感じていたり、コミュニケーションスキルの不足から人間関係のトラブルが絶えなかったりという面もある。複数の教員が配置されているとは言え、能力差が大きい生徒達全員に対応した授業を展開していくことの教員の負担も少なくない。しかしコミュニケーション力の向上には、実体験が大変重要であるため、トラブルも含めて、人間関係を築く実践的な経験ができることは、生徒にとって非常に有益であると考えている。

#### 4 題材の目標

- (1) 何が正しいのかを考え、自分なりの考えをもつことができる。
- (2) 他者の意見を聞き、自分の考えの参考にすることができる。
- (3) 勝利を追求する人の気持ちを理解しようと努めることができる。
- (4) 誤審のおかげで勝利するのは避けたいと考える人の気持ちを理解しようと努めることができる。

#### 5 本時の指導過程

過程	学習活動	期待される生徒の反応	指導上の留意点	時間
導入	・アイスブレイキング (じゃんけん、クイズ)	・楽しく活動に参加する  ・勝利に、特典や賞金や伴うと喜びが増すことを体験する  (勝ったら10万円もらえる！ となると、勝った時の喜びが増すという例)	・自分なりに考えることが本時の目標であることを繰り返し強調する(スポーツについて学ぶことが目標ではない)  ・勝敗がつく場面においては、負けるよりも勝つ方が楽しかったり、報いが大きかったりするなどの例を示す	5
展開1	・サッカーの場面について教師の話聞く	①勝ちたいという全選手の気持ちに共感する  ・「PKだ、ラッキーだ。点を取って勝てる。」  ・「勝ったら賞金で家族を喜ばせてあげられる」  ・「審判のミスは、自分のせいじゃない」	・生徒が場面設定を理解しやすいよう、イラストを用いて説明する(板書例参照)	8
		②誤審のおかげで勝っても嬉しくないとする選手の気持ちに共感する  ・「審判のミスのおかげで勝ってしまっているのだろうか」  ・「審判のミスだと知っていてそれを利用するのはずるい行為ではないだろうか」	・選手の感情を理解しやすいよう、選手のイラストとセリフ(吹き出し)を黒板に貼り付ける(板書例参照)	8

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「勝った、と胸を張って言えるだろうか」</li> </ul>		
		<p>③誤審のおかげであっても、勝利にこだわりたいという選手の気持ちを理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相手には悪いけれど、今は勝つことが大事。」</li> <li>・「運も実力のうち、勝つチャンスなのだから勝とう」</li> <li>・「もし逆の立場でも相手チームもPKを決めてくるかもしれない」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手の感情を理解しやすいよう、選手のイラストとセリフ(吹き出し)を黒板に貼り付ける(板書例参照)</li> </ul>	8
展開2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を発表する</li> <li>・クラスメイトの意見を聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えたことを発表する</li> <li>・クラスメイトの発表を聞き、自分とは異なる考え方に気づく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(必要に応じて)発表を、ある程度上手にできる生徒を指名して発表させる</li> </ul>	10
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現段階での最終的な意見を決める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスメイトの意見を聞いた上で、最終的な自分の意見を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(導入時の繰り返し)自分なりに考えることが本時の目標だったことを再確認する</li> </ul>	6

## 6 評価の観点

- (1) 何が正しいのかを考え、自分なりの考えをもつことができたか。
- (2) 他者の意見を聞き、自分の考えの参考にすることができたか。
- (3) 勝利を追求する人の気持ちを理解しようと努めることができたか。
- (4) 誤審のおかげで勝利するのは避けたいと考える人の気持ちを理解しようと努めることができたか。